

日々是Oracle APEX

Oracle APEXを使った作業をしていて、気の付いたところを忘れないようにメモをとります。

2023年2月21日 火曜日

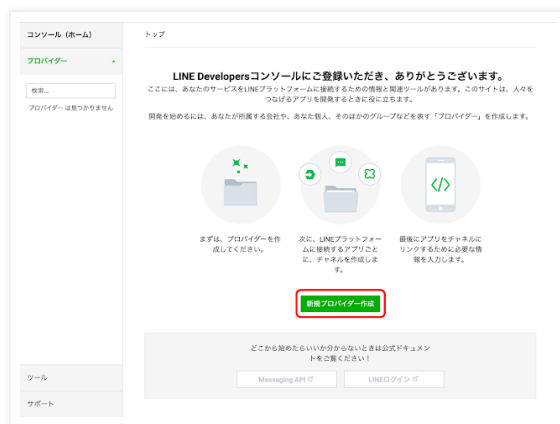
LINEアカウントによる認証

本記事ではLINE Developersコンソールよりプロバイダーとチャネルを作成し、APEXアプリケーションの認証スキームとしてLINEを使用できるようにします。

LINE Developersコンソールを開きます。URLは<https://developers.line.biz/console/>です。ログインをしていない場合は、ログイン画面が表示されます。私はビジネスアカウントを持っていないので、LINEアカウントでログインしました。



LINE Developersコンソールが開いたら、最初にプロバイダーを作成します。



プロバイダー名は任意です。個人の開発者、企業、組織を名前とします。今回はYuji N, Oracle APEX Developerとしました。本記事は実装例なので個人名、企業名、組織名ではありませんが、ユーザーが確認する同意画面に表示される情報なので、適切な名前を選ぶことをお勧めします。

作成を実行します。

新規プロバイダー作成

プロバイダー名 ①

Yuji N, Oracle APEX Developer

✓ 入力必須項目です

✓ 特殊な文字（4バイトのユニコード文字）を使用しないでください

✓ 100文字以内で入力してください

プロバイダーとは、サービスを提供し、利用者の情報を取得する個人の開発者、企業、組織のことです。詳細は、[ドキュメント](#) を参照してください。

キャンセル

作成

プロバイダーYuji N, Oracle APEX Developerが作成されました。

LINEログインのチャンネルの作成から始めます。

コンソール (ホーム)

プロバイダー

検索...

Admin

Yuji N, Oracle APEX Developer

トップ : Yuji N, Oracle APEX Developer

Yuji N, Oracle APEX Developer

チャンネル設定

権限設定

プロバイダー設定

登録されているチャンネルはありません。

チャンネルを作成するには、チャンネルの種別を選択します。

LINEログイン

Messaging API

新規チャンネル作成画面が開きます。

チャンネルの種類、プロバイダーは設定済みです。サービスを提供する地域は（この記事の読者は日本人でしょうから）日本でしょう。会社・事業者の所在国・地域も日本でしょう。

新規チャンネル作成

チャンネルの種類

LINEログイン

✓ 入力必須項目です

プロバイダー

Yuji N, Oracle APEX Developer

✓ 入力必須項目です

サービスを提供する地域 ①

日本

タイ

台湾

インドネシア

会社・事業者の所在国・地域 ①

日本

法人の場合は会社の所在国・地域を、個人の場合は店舗や居住地の所在国・地域を選択してください。

✓ 入力必須項目です

チャンネルアイコンの設定は任意です。チャンネル名とチャンネル説明は必須なので、それぞれ入力します。アプリタイプとしてウェブアプリを選択します。

チャンネルアイコン

任意

登録

✓ 対応ファイル形式：PNG, JPEG, GIF, BMP

✓ ファイルサイズ：3 MB以内

チャンネル名

APEX Demo App

✓ 入力必須項目です

✓ 特殊な文字（4バイトのユニコード文字）を使用しないでください

✓ 100文字以内で入力してください

チャンネル説明

Demo APEX App Authenticated with LINE account.

✓ 入力必須項目です

✓ 特殊な文字（4バイトのユニコード文字）を使用しないでください

✓ 300文字以内で入力してください

アプリタイプ ①

ウェブアプリ

ネイティブアプリ

✓ 入力必須項目です

メールアドレスを指定します。開発者のメールアドレスがデフォルトで設定されていると思います。


プライバシーポリシーURL、サービス利用規約URLは現時点では入力をスキップします。アプリケーションを作成し本番利用することがあれば、それまでには準備が必要でしょう。

LINE開発者契約の内容に同意しますにチェックを入れ、作成をクリックします。



チャンネルが作成されます。

チャンネル基本設定のチャンネルIDは、APEXのWeb資格証明を作成する際に、クライアントIDまたはユーザーIDとして設定します。コピーを取得して保存しておきます。



下にスクロールします。

チャンネルシークレットはAPEXのWeb資格証明のクライアント・シークレットまたはパスワードとして設定します。コピーを取得して保存しておきます。



さらに下にスクロールすると、**Open ID Connect**の設定項目として**メールアドレス取得権限**があります。今回はメールアドレスを使わない設定を行います。そのため、ここは**未申請**のまま変更しません。



APEXの置換文字列APP_USERにメールアドレスを使いたい場合は、**申請**が必要です。**申請**をクリックして、いくつかの必要な情報を更新します。



一度申請をすると変更できないようです。その場合は、チャンネルを作り直す必要があります。

LINEログイン設定のタブを開き、**コールバックURL**を設定します。**編集**をクリックします。

コールバックURLとして**https://APEXが動作しているホスト名/ords/apex_authentication.callback**を設定します。**apex_authentication.callback**より前の部分は、APEXのURLのベースパスです。

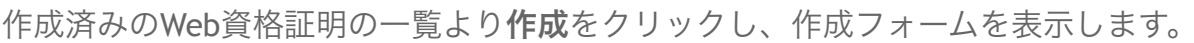
Autonomous Databaseの場合、以下のような形式です。

https://ユニークなID-インスタンス名.adb.リージョン.oraclecloudapps.com/ords/apex_authentication.callback

コールバックURLを設定して、**更新**をクリックします。



ワークスペース・ユーティリティのWeb資格証明を開きます。



名前はLINE Account、静的識別子はLINE_ACCOUNT、認証タイプとしてOAuth2クライアント資格証明フローを選択します。

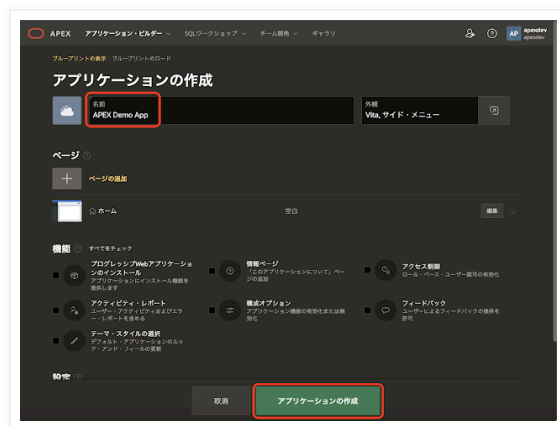
クライアントIDまたはユーザーIDとして、LINEのチャンネル基本設定のチャンネルID、クライアント・シークレットまたはパスワードとして、LINEのチャンネル基本設定のチャンネルシークレットを指定します。

以上で**作成**をクリックします。



アプリケーション作成ウィザードを起動します。名前はAPEX Demo Appとします。

アプリケーションの作成をクリックします。



アプリケーションが作成されたら、共有コンポーネントの認証スキームを開きます。



作成をクリックします。



スキームの作成はギャラリーからの事前構成済スキームに基づくです。

次へ進みます。



作成する認証スキームの名前は**LINE Account**とします。**スキーム・タイプ**として**ソーシャル・サインイン**を選択します。

設定の**資格証明ストア**として、先ほど作成したWeb資格証明**LINE Account**を選択します。**認証プロバイダ**として**OpenID Connectプロバイダ**を選択します。

LINEのOpen ID Connectの**検出URL**は以下になります。

<https://access.line.me/.well-known/openid-configuration>

有効範囲（scope）として**profile**を指定します。**openid**はAPEXがデフォルトで有効範囲に含めます。またemailについてはLINE側で許可を与えていないため、有効範囲には含めません。

ユーザー名は**#sub# (#APEX_AUTH_NAME#)**とし、**ユーザー名の大文字への変換**は**いいえ**とします。

以上で**認証スキームの作成**をクリックします。

認証スキームの作成

名前

名前 LINE Account

スキーム・タイプ ソーシャル・サインイン

設定

資格証明ストア LINE Account

認証プロバイダ OpenID Connectプロバイダ

検出URL <https://access.line.me/.well-known/openid-configuration>

有効範囲 profile

認証URLパラメータ

ユーザー名 #sub# (#APEX_AUTH_NAME#)

ユーザー名の大文字への変換 いいえ

追加ユーザー属性

追加ユーザー属性のマッピング先

属性の検証 はい

認証スキーム**LINE Account**が作成され、**カレント**の認証スキームに設定されます。

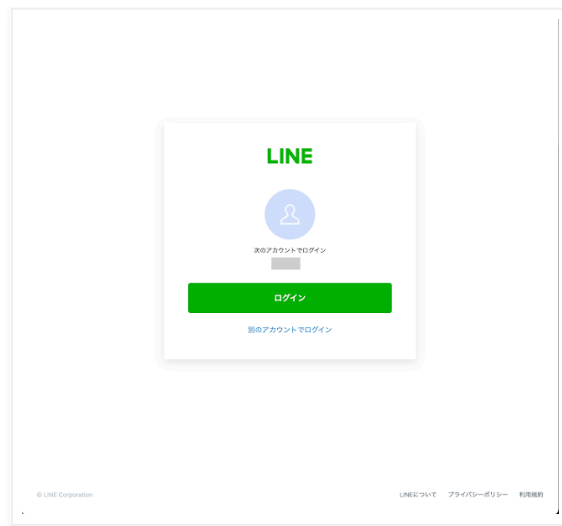
認証スキーム

アクションが処理されました。 認証スキームは現在の認証スキームとしてアクティブ化されています。

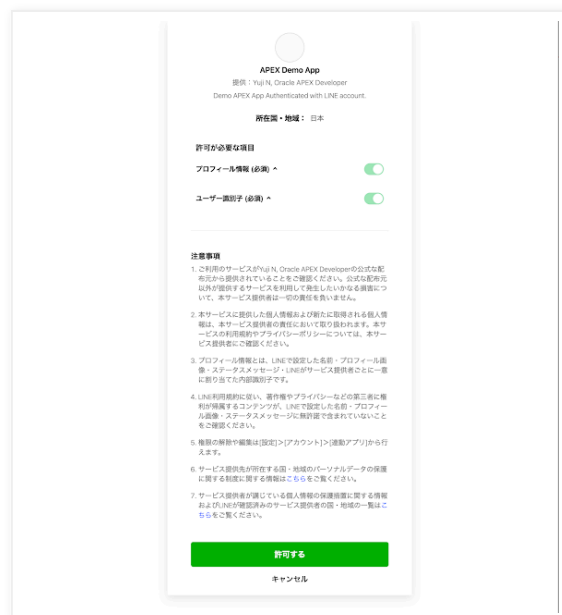
名前	スキーム・タイプ	サブスクリプション	サブスクリプション	更新
LINE Account - カレント	ソーシャル・サインイン			
Oracle APEXアカウント	Oracle APEXアカウント			5分前

認証スキームが作成されたので、**アプリケーション**を実行します。

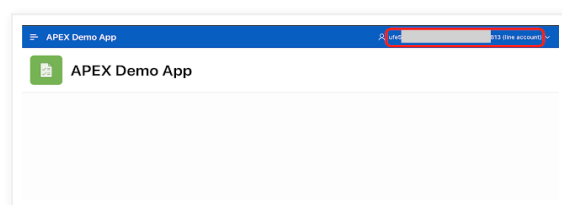
LINEのログイン画面が表示されます。



ログインをクリックすると、初回ログイン時は**プロフィール情報**および**ユーザー識別子**のアプリへの使用を許可するかどうか、確認を求められます。



許可するをクリックすると、APEXアプリケーションが開きます。



以上でLINEアカウントによるAPEXアプリケーションの認証ができました。

認証スキームのユーザー名に設定した値**#sub# (#APEX_AUTH_NAME#)**が置換文字列**APP_USER**の値になります。APP_USERの値は一意であることが求められるため、属性**sub**と**APEX_AUTH_NAME**の組み合わせ（Open ID Connectによる認証は、複数のプロバイダを切り替えられるように実装することが多い）が使用されています。

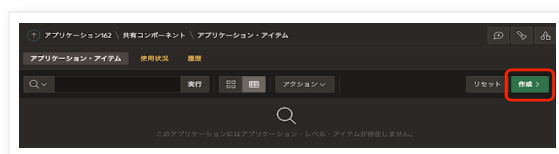
そのような理由はあるのですが、画面上の表示には不向きです。そのため、画面上にはLINEからの応答に含まれる属性**name**を表示するようにAPEXアプリケーションを変更します。

属性nameの値をAPEXアプリケーションに保持するために、アプリケーション・アイテムを作成します。

共有コンポーネントのアプリケーション・アイテムを開きます。

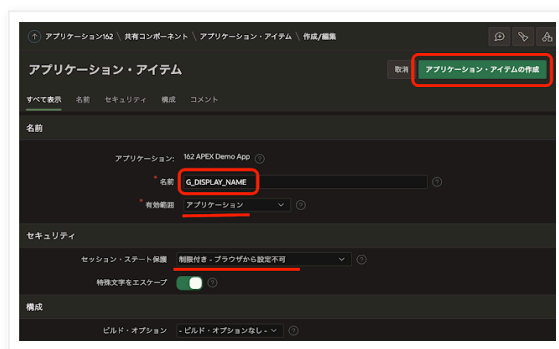


作成をクリックします。



名前はG_DISPLAY_NAMEとします。有効範囲はアプリケーション、セキュリティのセッション・ステート保護が一番厳しいデフォルトの制限付き - ブラウザから設定不可を選択します。

アプリケーション・アイテムの作成をクリックします。



アプリケーション・アイテムG_DISPLAY_NAMEが作成されます。



ユーザー名が表示されているナビゲーション・バーの設定を変更します。

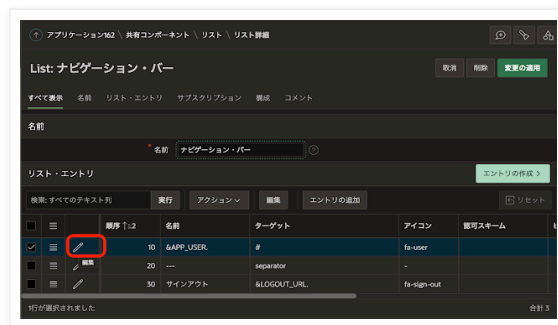
共有コンポーネントのナビゲーション・バー・リストを開きます。



ナビゲーション・バーを開きます。



名前が&APP_USER.となっているエントリの鉛筆アイコンをクリックし、そのエントリの編集画面を開きます。

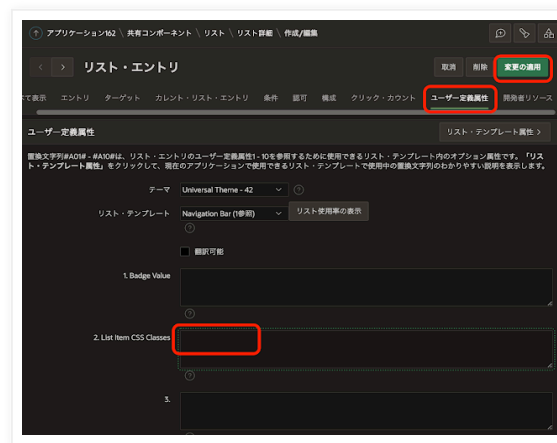


エントリのセクションにあるリスト・エントリ・ラベルを&APP_USER.から&G_DISPLAY_NAME.に変更します。

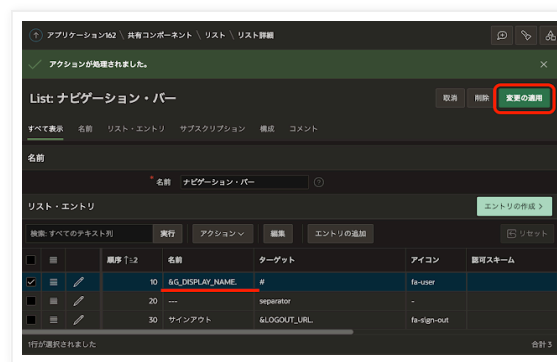


ユーザー定義属性のセクションの2. List Item CSS Classesに設定されているhas-usernameの指定を削除します。この指定があると、ユーザー名が小文字に変換されて表示されるためです。

以上の変更を行い、**変更の適用**をクリックします。

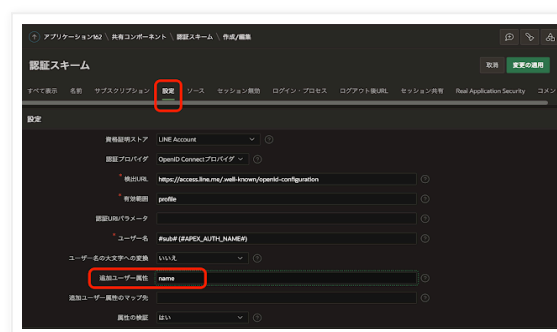


ナビゲーション・バーの変更の適用を行います。



認証スキームに**認証後のプロシージャ**を記述し、LINEの応答に含まれる属性nameをアプリケーション・アイテムG_DISPLAY_NAMEに設定します。

認証スキーム**LINE Account**を開き、**設定の追加ユーザー属性**としてnameを指定します。



ソースのPL/SQLコードに以下を記述します。

```
procedure post_auth is
begin
  :G_DISPLAY_NAME := apex_json.get_varchar2('name');
end post_auth;
```

set-name-as-display-name.sql hosted with ❤ by GitHub

[view raw](#)



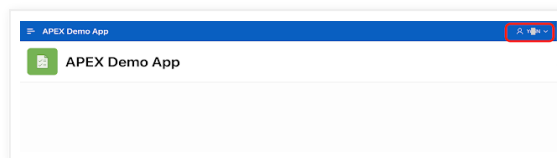
ログイン・プロセスの認証後のプロシージャ名としてpost_authを指定します。

以上で変更の適用をクリックします。



認証後のプロシージャを実行するには、アプリケーションのログインをやり直す必要があります。

APEXアプリケーションをログアウトし再度ログインすると、ナビゲーション・バーにLINEのログイン画面に表示されていた名前が表示されます。



以上で今回の作業は完了です。

実装したのは認証スキームですが、今回作成したAPEXアプリケーションのエクスポートを以下に置きました。

<https://github.com/ujnak/apexapps/blob/master/exports/apex-demo-app-line.zip>

Oracle APEXのアプリケーション作成の参考になれば幸いです。

完

Yuji N. 時刻: 19:28

共有



ホーム



ウェブ バージョンを表示

Yuji N.

日本オラクル株式会社に勤務していて、Oracle APEXのGroundbreaker Advocateを拝命しました。
こちらの記事につきましては、免責事項の参照をお願いいたします。

[詳細プロフィールを表示](#)

Powered by Blogger.
